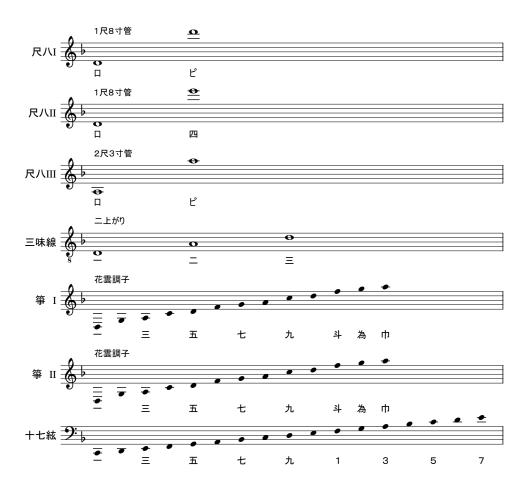
## しょこうとうげんちょう 曙光桃源調

加羅古呂庵 一泉



運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。

曙光桃源調 Shokoh-Tohgen-Choh

## 曙光桃源調

青みを帯びた東の空が、しだいにオレンジ色に染まり、まばゆい日の光が、里山に取り囲まれた田畑や家々を照らし出します。縄文、弥生の昔から、人々は里山とともに、自然と調和した暮らしを積み重ねてきました。暁に照らされて活力ある一日が始まり、農耕や商流の発展とともに、里の賑わいは増していきました。やがて、清らかな水が流れ、里山が連なる丘陵地帯だったところに、道が作られ、駅ができ、新しい街がつくられました。そして、戸建て住宅やマンションが立ち並び、商業施設やオフィスに人々が集う街へと発展してきたのです。桃の花こそ咲いてはいませんが、現代の桃源郷と言うのは過言でしょうか?

街が便利になればなるほど、自然との調和は失われていきます。かつての里山の暮らしに想いを馳せつつ、多くの人々が活気をもって暮らし、環境と調和した 未来に向かってこの街がさらに発展していくことを願い、曲を作りました。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に、2尺3寸管は1尺8寸管に置き換えて記載しています。正確には、五線譜(スコア)をご参照ください。